

塀の外の居場所

島根県支援センター3年

<2>

累犯障害者の尾崎正彦(36)〔仮名〕が最後に入ったのが松江刑務所(松江市西川津町)。口にする。

盗みなどを繰り返す再犯の男性受刑者を中心に受け入れている。

収容者755人(2012年9月1日現在)のうち、知的障害の目安の一つとされる「IQ(知能指数)相当値69以下」は160人。このうち「療育手帳」の所持者は約3分の5人しかいない。

塀の中に埋もれた累犯障害者。「早い段階で何らかの助けがあったら、ここには来なか

変わる刑務所

円滑な社会復帰
こうした実態を受け

て国は07年4月から、帰住先の有無や生活費のあてがあるか、頼れる人がいるかなどを質問。長い受刑者で1時間以上。面会が複数回に及ぶこともある。丹念な調査で、福祉サービスなどのニーズを把握。集めた情報は

年7月から松江刑務所に勤務する社会福祉士の保津卓生(46)。介護福祉士と精神保健福祉士の資格も持つ福祉分野の専門家だ。

刑務所では、パソコン上で受刑者のIQ相当値や出所時期をチェックし、面会の対象者を選定。職歴や生育歴などを頭にたたき込み受刑者と向き合う。

再犯防止へ社会福祉士



松江刑務所内の居室棟を巡回する刑務官。刑務所は福祉の入り口にもなった

刑務所を通して保護観察は「外に出たら元気で」に提供し、地域生活や「よ」と声を掛ける。今後は受刑行方受け入れ先の調整などに活用される。職員が釈放後の刑務官歴35年のベテラン山根は「これまで」と話す。

「特別調整」効果

調整」で18人を釈放した。山根は「福祉につながれば送る方も安心。再犯で刑務所に戻ったのは、これまでに2人。一般の満期出所者に比べて再犯率は極めて低い」と制度の効果を口にする。

保津は言う。「刑務所には社会福祉から漏れていった人たちがいる。そういう人を一人でも多く、普通の暮らしに引き戻したい」

同刑務所では10年1月、13年2月、「特別

◆「特別調整」の主な流れ◆

